

熟練の技をITにより標準化 20代男女が活躍する精密加工メーカー

自動車や航空宇宙など、幅広い分野の精密機械部品製作を手がける月井精密株式会社。熟練の職人技が必要とされた世界で、20代の若手社員が中心となり「ものづくり」を支えています。

ほとんどの社員が未経験からスタート。「経験こそが一番重要」との方針のもと、着実に成長を遂げているという。

20代男女が加工作業のメイン 若手同士のスピーディーな連携が強み

月井精密株式会社は精密機械部品の加工メーカー。自動車や医療、計測機器などの分野に幅広く部品を供給しており、「H2Aロケット」や「はやぶさ2」、国立天文台の「アルマ望遠鏡」といった難易度の高い精密加工の受注実績もあります。「日本のものづくり」といえば、熟練の技術者による職人技を想像しがちですが、月井精密を支えているのは20代の若手社員たちです。

「社員は約15名おり、男女比は半々くらい。34歳の私が最年長です。2013年にタイ工場を設立しており、現地のトップも31歳の女性です」(名取氏)

創業者の祖父から事業を受け継ぎ、名取氏が社長に就任したのは20歳の時。熟練者の技術に依存せず、誰でも一定以上の品質の製品を生み出せるよう、作業の標準化・IT化を進めてきました。高性能な工作機械が立ち並ぶ工場内では、女性を

含む若手が加工作業で活躍しています。

「子どもを持つ女性も多く、育児休暇や時短勤務などの制度を整えました。職場環境の改善も、社員の声を基に、アイデアを出し合いながら進めています。同世代が集まっているからか、意思の疎通や連携がスピーディーに行われる場面も多いですね」(名取氏)

企業理念は「共創共生」 お客さまや社員とともにものづくり

「作業のIT化」は製造工程にとどまらず、事務作業にも及びます。これまで経験と勘に頼っていた見積作業を見直したいという思いから、クラウドサービス「TerminalQ (ターミナルQ)」を立ち上げました。

「いくら技術力が高くても、見積りの精度が甘ければ事業が成り立ちません。感覚的な部分を排除するために、見積りもSNS化したいと考えました」(名取氏)

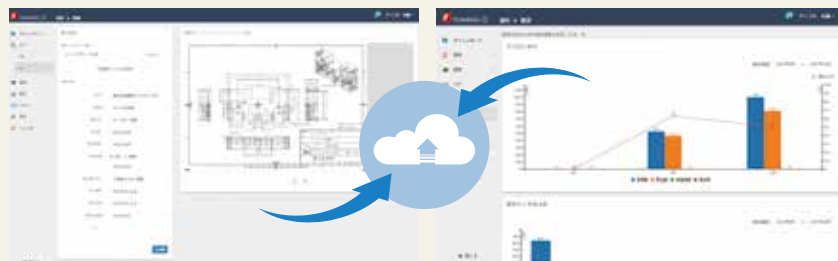
「TerminalQ」は、クラウドに図面をアッ

プロードし、見積依頼や見積書作成、進捗状況などを一元管理できるサービス。システム上のやりとりで見積作業が完結するほか、蓄積されたデータから経営分析や協力会社の検索も可能です。

「今は情報が企業成長を左右する時代。社長の鶴の一声より、データに基づいた戦略の方が若手社員の信頼を得やすいと感じています」(名取氏)

こうして若手が活躍するしくみを整えた同社は、一人の社員が顧客折衝や試作品製作、量産手法の確立、タイ工場への展開に至るまで責任を持って業務にあたります。工程を一通り体験させるその先には、社員の「独立支援」があるといいます。

「グループ会社として資本関係を結べれば、お互いにもできることも増えるでしょう。月井精密の理念は『共創共生』。お客さまや協力工場、そして社員とともに、新たなものづくりに取り組んでいきたいと思います」(名取氏)



クラウドサービス「TerminalQ (ターミナルQ)」の操作画面。今後はクラウド上に蓄積されたデータを基に、AIが見積もりを行うシステムの開発に挑むという。

月井精密株式会社
代表取締役
名取 磨一氏



祖父より事業を受け継ぎ、20歳で月井精密の代表取締役に。クラウド見積ソフト「TerminalQ」を開発する株式会社NVTの代表取締役社長を兼任する。